



○沿革と概要

大阪大谷大学における日本語教師養成課程は、1998年に日本語日文学科(当時、国文学科)に「日本語教育コース」として設置されました。日本語の仕組みや文法を学ぶだけでなく、それを外国語として教える実践的な指導力を養う授業が用意されています。基幹となる日本語学や文学の学びと組み合わせることで、幅広い理解と教育実践力を育てます。2004年には「平成12年報告」に、そして2021年には「必須の教育内容50項目」に対応しています。

○受講資格・定員

現在は日本語日文学科の学生(1学年50名)が受講可能ですが、登録日本語教員養成機関および実践研修機関の申請とともに、全学部(薬学部を除く)の学生が受講できるように準備を進めているところです。現在定員の制限はありませんが、毎年課程を修了するのは5名程度で、少人数で一人ひとりにきめ細かい指導ができる体制になっています。

○課程修了要件

「日本語教育コース」の科目は以下の表の通りで、すべて必修科目となっています。合計30単位の取得で修了となります。

科目名	単位
日本語教育学入門	2
日本語教育学概論	2
日本語教育文法研究 A・B	2×2

日本語音声学	2
日本語教育法 A・B	2×2
言語学概論 A・B	2×2
異文化コミュニケーション	2
国際社会学 A	2
日本語教育のための第二言語習得論	2
児童生徒のための日本語教育	2
日本語教育実習 A・B	2×2

○課程授業の一例

本課程の特長は、1年次から実践を多く取り入れていることです。1年前期の「日本語教育学入門」では、先輩日本語教師をゲストスピーカーに招いて現場の話を聞いたり、「やさしい日本語」の専門家から講義を受けた翌週に、近隣の日本語学校の学習者とやさしい日本語交流会を行い、自分の日本語が相手に伝わるかを試したりしています。



1年後期の「日本語教育学概論」では、「日本語教育の参照枠」と ICT の活用について学んだあと、実際にオンラインでタイとインドネシアの日本語学習者に日本語を教えてみるという経験をしします。

3年次の「児童生徒のための日本語教育」では、富田林市教育委員会の協力を得て、小学校での外国ルーツの児童に対する日本語指導の現場を見学させてもらっています。

○教壇実習

前期は日本語学校で初級学習者を対象に、後期は大阪大学日本語日本文化教育センターの中級以上の学習者を対象に、プロジェクトワーク型の実習を行っています。

前期は、日本語学校の理念や授業方針・カリキュラムに沿って指定の教科書を用い、一人45分×2コマの教壇実習を行います。そして、交流会を企画し、大学内で広報して参加者を集め、ファシリテーターとして運営も行い、互いにメリットのある実習になるようにしています。



後期は実習生みんなで協働してコースデザインを考えるとところから始め、自分たちで授業をつくりあげていきます。これまで、「たこ焼きを通してオノマトペを学ぼう!」「漫才をしよう!」「漫画でビブリオバトル!」など、ユニークで多彩な授業を行い、参加者からは「楽しみながら学べる」と高い評価を得ています。



○学習支援体制

日本語学校、国際交流協会、教育委員会など、外部機関と連携を取り、実践的な学びの場を提供しています。日本語教師を目指す学生には、4年次に大学や日本語学校でのインターンシップを紹介しています。学内では、国際教育交流センター主催の日本語教育支援バディ制度で留学生の日本語学習サポートの経験を積むことができます。また、研究室にて日本語教員試験合格に向けた勉強会を行っています。

○課程修了と進路

修了者には、コース修了証書が交付されます。近年は、コース修了者のうち毎年1名程度が卒業後に日本語教師になっていますが、企業でも課程での学びを生かして活躍しています。

○大阪大谷大学の養成課程について知るには

日本語日文学科の特色・コース紹介をご覧ください。活動報告はその都度 HP の NEW S でお知らせしています。

<https://www.osaka-ohtani.ac.jp/departments/literature/japanese/about/>

詳しくは、担当教員(杉本香:sugimokao@osaka-ohtani.ac.jp)までお問い合わせください。

